

コミュニティ

community
The New Apostolic Church around the world



Number 2, 2021

2021(令和3)年第2号・日本新使徒教会発行

〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320 (本部) Tel. 042-374-0070

〒799-2468 愛媛県松山市小川甲 110 番地 17 Tel. & Fax. 089-994-3556

<http://www.nac-japan.org>

日本小教区主任牧司：門平 彰弘 E-mail: kadohira.nac@icloud.com

監修：高島 健郎 / 編集担当：松岡 利恭



日本新使徒教会

■ 論説

3 キリスト、我らの未来

■ 礼拝

5 もう準備ができました



キリスト、我らの未来

敬愛する兄弟姉妹の皆様。

昨年2020年は新型コロナウイルスが世界的に流行しました。世界各地から、苦悩や悲しみに満ちた報告を数多く届いています。しかしそんな危機でも、私たちから奪えないものが一つあります。それは、**神様へ信頼**であります！神様は今も私たちのお父様であり、ご自分の子供たちのために、ひたすら最善のことを考えてくださいます。

信仰は、私たちの未来を決めるものでもあります。2021年がどのような展開になるのかわかりませんが、私たちは、イエス様が間もなくおいでになるという確信をもって、新年を迎えます！キリストの来臨は、私たち信仰の目標です。そこで、今年の標語は、

キリスト、我らの未来

とします！キリストが我らの未来なのは、キリストが私たちに確信を与えてくださるからです。信仰の道を忍耐強く走り抜くのに必要な活力とやる気は、キリストの中に見出すことができます。人生の困難や他人の行動に失望すべきではありません。断固たる決意をもって、この目標に向かって行きましょう。

キリストが我らの未来なのは、キリストが私たちの救いであり、私たちを完全な者にしようとしてくださるからです。その根拠が、キリストの死と復活です。キリストは、私たちが救いを獲得できるよう気にかけておられ、必要なものをすべて与えてくださいます。主が御業を完成なさるといふ約束は、確実なことです。キリストに忠実であり続けることにより、その恵みを希望できます。さらに、キリストの栄光が私たちに臨むあらゆる苦難に勝ることを確信できます。

キリストが我らの未来なのは、キリストが私たちの未来を決めてくださるからです。どう生活するのか、どうふるまうか、信仰をどうするのかは、私たち自身が決めることです。キリストと共に永遠に暮らすためには、もう今のうちからキリストとの交わりを求めます。キリストの福音は、夫婦生活、子育て、



隣人との関係を構築するための土台です。イエス・キリストは私たちが見習うべき模範なのです。

今年一年、皆様が平和を思い、平和を体験されますように。神様の祝福が宿りますように。神様の祝福が共にありますように。天に昇られたお方の平和がありますように！キリストを信頼し続けましょう。私たちの霊的未來は、これにかかっているのです。常にキリストを見続けることによって、目標に到達するのです！

敬具

A handwritten signature in blue ink, consisting of several overlapping loops and lines, appearing to be 'Jean-Luc Schneider'.

ジャン＝ルーク・シュナイダー

もう準備ができました



2019年8月4日、サンパウロ(ブラジル)・プルマンホテルの「カントリーホール」で行われた、ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒による礼拝には、およそ500名が出席しました。

ルカによる福音書 14章 16～17節

そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催^{もよお}そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕^{しもべ}を送り、招いておいた人々に、『もう準備ができましたので、お出でください』と言わせた。」

敬愛する兄弟姉妹の皆さん。本日このようにして、サンパウロで祝祭の礼拝を体験させていただくことができ、私たちは天のお父様に感謝致します。きょうは皆さんにとって記念すべき日であることを、私も承知しております。現職教区使徒の引退と新たな教区使徒の任命が行われます。これは特別なことです。ただ何よりも、きょう私たちは神様のご奉仕を体験できるのです。教区使徒の新旧交代ではありません。むしろ皆さんのことです。皆さんのことや、皆さんと神様との関係のことです。神様が皆さんを強めようとしておられます。慰めようとしておられます。イエス・キリストの再臨に備えさせようとしておられます。これがきょう、最も大事なことなのです。神様は皆さんを愛され、皆さんのためにご計画を用意しておられます。それはすべて、皆さんや皆さんの魂に関わることです。神様は、

ご自分と私たちとの関係、ご自分と私たちとの交わりを強めようと考えておられます。

そして二つ目が、やはり教区使徒の交代です。比喩的に申し上げれば、ブラジル新使徒教会の歴史という本の第一章が終わり、新たな一章が始まるということです。同じ書物で章が変わるということです。私たちの目的地に到達するためには、同じ神様に従い、同じ目標に向かって、同じ道を歩まねばなりません。ですから心配しないでください。何一つ変わらないのです。ひたすら天に向かって歩み続けるだけです。

さらにきょうは、振り返って過去長年にわたって天のお父様が祝福してくださったことに感謝する良い機会でもあります。どのくらい祝福してくださったのかを申し上げることは、私に

できませんし、いただいた祝福をすべて把握しているわけでもありませんが、教区使徒が活動してきた年月において、神様がこの国を祝福してこられたこと、そしてこの年月における素晴らしいことを皆さんがたくさん体験できたことは確かです。ですから、神様が祝福してくださったことに感謝をささげるべきではないでしょうか。

さて、本日の聖句に目を投じてみましょう。イエス様が語られたたとえ話からの引用です。ある人が盛大な宴会を用意しました。マタイによる福音書では婚礼の祝宴となっています。この宴会にはたくさんの方が招かれました。当日、この人は僕を送って、「すべての準備ができました」と言わせました。ところが誰一人来なかったのです。

最初の方は、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言いました。またほかの方は「牛を五対買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください」と言いました。また別の人は「妻を迎えたばかりなので、行くことができません」と言いました。するとこの主人は僕にこう言いました。「急いで、町の大通りや路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。」さらに続けてこう言いました。「街道や農地へ出て行って、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいしてくれ」(ルカ 14:18-23)。

宴会というのは、神様との交わりを表しています。ユダヤ教では伝統的に、宴会は神様と人類との交わりの象徴、御国における飲食の象徴とされていました。

神様がご自分の民、イスラエルの民をお選びになったのは、ご自分の交わりのためであり、御子を僕としてお遣わしになったのは「もう準備ができましたので、お出てください」と人々に言わせるためでした。しかし人々はイエス様の招きを受けませんでした。イエス様に従いませんでした。そこで神様はこう仰せになったのです。「救いはすべての国民に提供されるのであって、一部の選ばれたの人々だけではない。」

以上がこのたとえ話の歴史的背景であり、意味であります。ただこれだけでなく、もう一つ言おうとしていることがあります。私たちも選ばれている、ということです。神様は、御国

に初穂として入るために、私たちを選んでくださったのです。子羊の婚宴に招いていただいているのです(黙 19:9)。これが私たちの未来です。そこでこんにちイエス様は私たちにこう仰せになるのです。「もう準備ができましたので、お出てください!」

イエス様が弟子たちのもとを去ることになった時に言われたことを思い出してみてください。「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える。こうして、私のいる所に、あなたがたもいることになる」(ヨ

ハ 14:3)。このようにして、イエス様はご自分が犠牲となることをお告げになりました。犠牲として献げられ、悪と死に勝利されました。このようにして、イエス様は私たちのために場所を用意してくださったのです。イエス様の勝利は最終かつ

イエス様が悪と死に打ち勝ち、 天に昇られたことにより、 すべての準備ができました

完全です。イエス様が悪と死に打ち勝ち、天に昇られたことにより、すべての準備ができたのです。ほかにすべきことは何一つありません。ですから、イエス様が場所を用意し終えたのかどうかなど、誰も考える必要はありません。すべてが整っているのです。すべての準備ができています。それ以上天国においてキリストの再臨に備えるべきことはありません。天国ではすべてが準備ができています。

この地上においても、すべて準備ができています。イエス様は聖霊を遣わし、聖霊は使徒を遣わし、聖霊の働きと使徒の働きを通して、すべてが準備できたのです。すでに、キリストの花嫁の一人となって御国に入るために必要なものはすべて、使徒職を通して私たちに与えられております。それはすなわち、水と聖霊による再生、神様の御言葉、罪の赦し、聖餐であります。このすべてに与ることができ、すべての人に提供されています。

たとえ話の中にあるように、「貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人」(ルカ 14:21)——どのような状況にあらうと、貧しかろうか金持ちであらうが、すべての人が御国に入るのに必要なすべてのものをいただけるのです。使徒職を通して、サクラメントを受けることができます。御言葉や恵みを分け合うことができます。初穂となることができます。こんにちとて同じです。キリストが再びおいでになるために、天においても地上においても、私たち一人ひとりのために、状況がどうである



うと、すべてが準備できているのです。

ヨハネの黙示録にこう書いてあります。「また私は、別の天使が生ける神の刻印を携え、日の出の方から上って来るのを見た。その天使は、大地と海とを損なうことを許されている四人の天使に向かって大声で叫んで、言った。「私たちが神の僕の額に刻印を押すまでは、大地も海も木々も損なってはならない」(黙7:2-3)。この言葉の解釈は注意する必要があります。神様は人間に左右されるわけではありません。平和の御国で必要とされるすべての者たちを神様が集め終わるまで、神様は待っていなければならない、またはこの群れの数が満ちるまで主はおいでになれない——そういうことはありません。最後の魂が証印を受け準備が整うまで、主は待っていなければならない——そういうことはありません。もしそうなら、神様が人間に左右されることになってしまうからです！すべて準備できているのに、私たちが準備できるまで、神様が待っていなければならないことになってしまいます…。

神様が人間に左右されることなどありません。主はもう二十年前においでになっていて、その時に準備できていたすべての人々を御許に引き上げたのかもしれない。そしてご計画は成就したのだらう。そう考えるほうがまだすっきりするでしょう。

もう一度言います。神様が人間に左右されることはありません。

ん！来ようと思えば、二十年前においでになることもできたわけです。百年前においでになることもできました。その時に準備できた人々を引き上げてしまうこともあり得たのです。もしそうなら、救いのご計画も完成したことになります。主はすべて準備ができています。神様がまだ御子をお遣わしにならないのは待っているからだ、というのは事実ではありません。まだおいでにならないのは、御子の愛と恵みの表れなのです。私たちが自らを準備するために、さらなる可能性を与えてくださっているのです。

イエス・キリストはいつもおいでになることができます。すべて準備できているのです。

神の僕の額に刻印を押すというこのたとえば、私たちがこの世にいる限りすべきことがまだある、という意味なのです。そう理解すべきなのです。イエス様はいつでもおいでになれます。神様は人間に左右されるのではなく、ご自身の愛と恵みによって私たちがキリストの再臨に備えるためのさらなるチャンスは今なお与えてくださるのです。そして額に刻印を押すもっと多くの魂を見つけようとしてくださっているのです。

「もう準備ができましたので、お出でください。」この言葉をもう少しきちんと理解します。お出でください！イエス様は皆さんを待ってはくれません。皆さんに左右されるわけではありません。

ません！しかし愛しておられます。今、おいでください！たとえ話にある、あの招かれた人たちのような愚かなまねはやめましょう！

キリストの再臨に備えることを、私たちの優先事項とすべきです。私たちにとってこれほど大切なことはありません。どんな日であろうと、どんな時であろうと、キリストの再臨に備えることはできるのではないのでしょうか。もう一度申し上げます。もう準備はできています。皆さんはいただくことができます。手に入れることができます。個人的状況がどうであれ、主の来臨に備えるために必要なすべてのもの、すなわち御言葉、恵み、 sacrament をいただくことができるのです。どうか、お出でになって、持って行ってください！

しかしこの「お出でになって」は、御言葉を聞いて、罪の赦しの宣言を聞いて、聖餐をいただくだけではありません。イエス様に従うためでもあるのです。

マタイによる福音書では、このたとえ話に礼服に関する記述が加えられています(マタ 22:11-14)。御国に入ろうと思えば、礼服が必要です。宴会に行くということは、イエス様に従い、イエス様と同じようにふるまうことでもあります。私たちにとって「お出でになって」とはそういう意味なのです。

私たちは、御国における神様との永遠の交わりに招かれております。天の御国での準備はすべてできています。イエス様はいつでもおいでになれるでしょう。神様はその愛と恵みによって、さらなるチャンスを私たちに与えてくださいます。私たちに今なお足りないものは、それが何であれ、こんにちの使徒職と聖霊の働きを通して得ることができます。

この聖句にはもっと次元の異なる意味もあります。ここでいう宴会とは、神様との交わりを表しているのです。神様との未来における交わりだけでなく、すでにこんにちこの世で与ることのできる神様との交わりも表しています。

イエス様はこの地上において弟子たちと交わりを持たれていました。食事会を行い、飲み食いを共になさいました。今も私たちとの交わりを願っておられます。ですからここでも「もう準備ができましたので、お出でください」という言葉が当ては

まるのです。

イエス様はこんにちにおいても、私たちがご自身と交われるように万端整えてくださいます。試練、苦難、誘惑、恐怖——私たちが経験させられることはいろいろありますが、パウロが言っているように、私たちの強さにはかきません。「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさ [いません]」(一コリ 10:13)。神様は、私たちがいかなる状況も克服し、ご自身とのつながりを維持できるようにしてくださいます。ただし神様の助けを私たちが認識しなければいけないのですが、そこが問題となることがあります。

旧約聖書にある物語があります。アブラハムの妻サラにはハガルという女奴隷がいて、彼女にはイシュマエルという男の子がいました。サラは、イサクを生むと、ハガルとイシュマエルを追い出してしまいました。追い出されたハガルは、砂漠をさまよっているうちに、水がなくなってしま

いました。砂漠の真ん中で水がなければ、自分もイシュマエルも死んでしまいます。そこでハガルはイシュマエルを低木の下に寝かせて、離れたところでイシュマエルのほうを向いて泣きました。すると神様が天使をお遣わしになり、天使はハガルの目を開かせました。ハガルのすぐ近くに突然井戸が現れました。井戸は前からそこにあったのですが、彼女の目に入らなかっただけでした。井戸は砂の中の穴にしか見えず、見つけづらいところにありました。私にはわかりませんが、ハガルは他の物を探していたのかもしれませんが、ただ、水を見つげられて二人が助かったことは事実です。

私たちも困難に遭遇することがあります。そして神様の助けを求めますが、それが目に入らないこともあります。神様に助けていただいているのを認識できないのは、神様は〇〇すべきだ、という自分勝手な考えがあるためです。しかし神様にとって最優先事項は、私たちをご自分と交わらせることです。このことが神様にとって第一なのです。この交わりを維持したいと願っておられるのです。私たちをご自分とつなげたいと願っておられるのです。これが神様による助けの目的です。しかし私たちにその神の助けが分からないことがあります。それは私たちが他の物を待っているからです。

私たちに今なお
足りないものは、何であれ
こんにちの使徒職を通して
得ることができます

神様を信頼しましょう！神様は、私たちがご自分とのつながりを維持するために必要なすべてのものを、御言葉、 sacrament、教役者、兄弟姉妹を通して確実に提供してください。忠実であり続けるために必要なものを、一人ひとりが確実に手に入れられるようにしてください。

聖霊に導いていただき、神様の助けを見つけられるようにしましょう。私たちの救いに必要なものはすべて準備できているのです。

神様の助けを手に入れるためには、いくつかの条件を満たさなければなりません。ここでも、遠い過去の物語が生きてきます。モーセとイスラエルの民はご存じでしょう。砂漠の中にいた彼らには、もう水がありませんでした。イスラエルの民はモーセに文句を言い背を向けました。「私や子どもたちや家畜を渇きで死なせるためだったのですか」(出 17:3)。神様はモーセに杖で岩をたたきようお命じになり、そうすれば水が出てくることを約束されました。

モーセが岩をたたくと、皆が飲めるほど、たくさんの水が出てきました。最初から水がそこにあったことは明白ですが、モーセは従わなければなりません。そうすることではじめて人々は助かったのです。モーセが神様の御旨を行っている限り、水が出てきました。神様の助けを体験するためには、私たちも神様に従わなければいけません—ただし罰を受けるのが怖いから従うわけではありません。神様との関係とは、神様に従うことなのです。神様に従いその御旨を行うのは、神様と交わりを持ちたいからです。従うとは、神様の御旨と一致することです。「神の思いは私の思い。私は神の思いを自分の思いとする。」

こうして神様とのつながりを維持しようと固く決意するならば、神様の助けを体験し、信仰を守るのに必要なすべてのものを確実に手に入れることができます。神様と一つになるかどうかは私たちの決意にかかっています。

すべて用意はできています。皆さんが必要とするものはすべて使えます。すべての人が神様の恵みに与れます。神様に赦していただけない罪はありません。用意はできていますが、私たちが神様のところに行かなければいけません。間違ったことをしていないかどうか自己点検しなければいけません。それは簡単なことではありません。

それでも「そうだ、間違っていたんだ」と自覚する覚悟を持っていなければいけません。「自分に罪を犯すよう強要した人はいない。自分で決めたことである。自分が間違った判断をしたのだ」という認識が持てなければいけません。

私たちはイエス様のところへ行き、痛悔^{つうぶ}の念に駆られます。罪を悔いて、恵みに与ります。すべての人が恵みに与れますし、その準備ができています。お出てください！悔い改める心をもって、お出てください。まっすぐな心をもって、お出てください。そうすれば恵みをいただくことができます。

お分かりいただけのように、非常に簡単なことを申し上げているのです。神様は、御国に入るのに必要なすべてのものを確保してください。すでにこんにちから神様との交わりを維持するのに必要なすべてのものを手に入れられるようにしてください。皆さんは、神様のころへ行って、用意してください。皆さんは、神様のころへ行って、用意してください。皆さんは、神様のころへ行って、用意してください。御国に入ろうと努力する人は、入ることができます。「もう準備ができましたので、お出てください。」これが神様からの約束です！



(左上) 南アメリカ教区の教区使徒に任命されたエンリケ・ミニオ教区使徒

(右上) 引退し、主使徒の謝意を受けるラウル・モンテ・デオカ教区使徒

(左) ライナ・シュトーク教区使徒(左)と通訳

まとめ

主はいつでもお出でになることができます。聖霊は使徒職を通して、私たちの救いに必要な賜物を与えてくださいます。神様は、私たちがどんな状態にあろうと信仰に忠実であり続けることができるようにしてください。